

昆虫の色のはたらきを探る

自然・環境マネジメント研究部 生態研究グループ

櫻井 麗賀



昆虫は体の色をいかして身を守ることがあります。例えば、体の色が緑のゴマダラチョウの幼虫が緑の葉にいと、天敵に見つからず攻撃されにくくなります。場所と色を合わせることによって身を守ることができるのです。また、形と色の組み合わせによって身を守ることもあります。アゲハチョウの若齢幼虫のように体の色が白黒の昆虫は鳥の糞に似ています。天敵である鳥に食べられないものだと思わせて、攻撃されないようにしていると考えられます。

昆虫の体の色は一生のうちに変わることがあります。ゴマダラチョウの幼虫は越冬する際に、緑色から枯れ葉に近い茶色へと変化します。このような色の変化と身を守る効果には関係があるのでしょうか。

昆虫の模型を使って場所や体の色などの条件をかえた野外実験を行っています。この実験では野鳥の反応をみて、異なる条件下における色のはたらきを調べています。



左上) ナミアゲハの若齢幼虫 右上) 鳥の糞 下) 背景に対して隠蔽的な色彩をもつゴマダラチョウの幼虫